



Infor LN 財務会計 通貨初期化 (CRI) ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	tfcriug (U8716)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 通貨初期化.....	9
第2章 通貨初期化環境の設定.....	11
第3章 通貨システムと会社の構造.....	13
第4章 通貨初期化のシナリオ.....	15
通貨初期化のシナリオ.....	15
第5章 通貨初期化処理.....	17
通貨初期化の前提条件.....	17
内部通貨初期化の完了.....	18
第6章 為替差.....	21
為替差.....	21
標準原価差額の縮小.....	21
第7章 ユーロ初期化.....	23
外部ユーロ変換の使用.....	23
ユーロ建て支払通知を生成するには.....	23
ユーロ建て利息請求書を作成するには.....	24
ユーロ建て現預金予測を作成するには.....	24
ユーロ建て財務会計を出力するには.....	24
ユーロ建て金額を表示するには.....	24
第8章 変換ルール.....	25
付録A 財務会計フィールドの確認.....	27
付録B 並列処理の設定.....	29
付録C 並列処理の性能調整.....	31
並列処理の性能調整.....	31
CI プロセス (tccri7203m000): テスト変換と実変換.....	34
Oracle 設定.....	35

SQL サーバ設定.....	35
DB2 設定.....	36
付録D 用語集.....	37
通貨初期化に関する用語集.....	37
索引	

文書情報

この文書では、LN における通貨初期化 (CRI) の実装、一般的な変換環境フレームワークについて説明します。

本書の対象

本書は、通貨初期化を設定および実行するユーザを対象としています。

読者は LN ソフトウェアをよく理解しており、LN ソフトウェアのパッケージ、モジュール、およびセッションの全体的な構造を理解しているものとします。財務会計に関する一般的な知識を有することが推奨されます。

本書の概要

本書では、LN での通貨初期化の導入について説明します。通貨初期化は、汎用変換環境です。

CRI を使用して、次のことができます。

- 通貨システムの変更
- 複数通貨導入用の推奨される標準への切替: 標準の通貨システム (Infor LN FP5 以降)
- 使用する自国通貨の変更または拡張
- 取引通貨をユーロに変更
- システムをユーロ対応にする
- 1 つの標準通貨システムについて複数の機能通貨を有効化 (Infor LN 10.2.1 以降)

略称および頭字語

本書では、次の略称および頭字語を使用します。

A/P	買掛金
A/R	売掛金
BP	取引先
CI	通貨初期化
COP	コロンビアペソ
CRI	通貨初期化
DKK	デンマーククローネ
DLL	動的リンクライブラリ
EMU	経済通貨同盟
EUR	ユーロ
FST	財務諸表
GBP	英国ポンド
G/L	総勘定元帳
INR	インドルピー
NZD	ニュージーランドドル
USD	米国ドル

本書の使い方

本書には、次の章が含まれます。

- 第1章「通貨初期化」では、通貨初期化とは何か、また通貨初期化によってシステムをユーロ対応にする方法について簡単に説明します。
- 第2章「通貨初期化環境の設定」では、変換クラスタの会社間で CRI テーブルを共有する方法、および正しい情報で CRI テーブルを初期化する方法を説明します。
- 第3章「通貨システムと会社の構造」では、LN で使用できる通貨タイプと通貨システム、および会社を互いにリンクする場合の会社の通貨システム要件について説明します。

4. 第4章「通貨初期化のシナリオ」では、CRIを使用することによって実行できる通貨システムの変更について説明します。
5. 第5章「通貨初期化処理」では、CRIセッションを使ってさまざまなタイプの通貨初期化を実行する方法を説明します。
6. 第6章「為替差」では、内部の通貨初期化の前後で通貨の為替レートが異なるために生じる為替差の転記方法を説明します。
7. 第7章「ユーロ初期化」では、CRIセッションを使用して自国通貨の1つと(EMUの)取引通貨をユーロに変更する方法を説明します。
8. 第8章「変換ルール」では、通貨初期化処理において金額や為替レートの変換および再計算に使用される標準の変換ルールを説明します。
9. 付録A「財務会計フィールドの確認」では、内部の通貨初期化後に確認および修正できるフィールドをリスト表示します。
10. 付録B「並列処理の設定」では、並列処理に必要な追加設定を説明します。
11. 付録C「並列処理の性能調整」では、並列処理を使用してCIプロセス(tccri7203m000)セッションを実行するときに必要な性能調整について説明します。
12. 付録D「用語集」では、本書で使用する用語の定義をリスト表示します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.comにご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、このWebサイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

第1章 通貨初期化

1

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000100 Currency Initialization Introduction

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000110 Internal and external currency initialization

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000120 Limited internal conversion

第2章 通貨初期化環境の設定

2

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000200 Setting Up the Currency-Initialization Environment

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000210 Additional setup for parallel processing

第3章 通貨システムと会社の構造

3

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000300 Currency types
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000305 Multiple functional currencies
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000310 Currency systems
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000320 Logistic area
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000330 Standard multicurrency system
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000340 Single currency system
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000350 Dependent multicurrency system
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000360 Independent multicurrency system
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000370 Currency exchange-rates

通貨初期化のシナリオ

通貨初期化シナリオは11通りあり、それぞれのシナリオで各タイプの通貨システムをその他の通貨システムのいずれかに変換できます。実行可能な通貨システム変換タイプを次の表に示します。独立複数通貨システムから依存複数通貨システムへの変換とこの逆の変換は実行できません。

通貨初期化シナリオ

変換前	単一通貨システム	依存複数通貨システム	独立複数通貨システム	標準通貨システム
変換後				
単一通貨システム	現地/参照通貨の変更	現地/参照通貨の変更、レポート通貨の削除	現地/参照通貨の変更、レポート通貨の削除	実行不可
依存複数通貨システム	現地/参照通貨の変更、レポート通貨の追加	自国通貨の追加/削除/変更、参照通貨の変更	実行不可	実行不可
独立複数通貨システム	現地/参照通貨の変更、レポート通貨の追加	実行不可	自国通貨の追加/削除/変更、参照通貨の変更	実行不可
標準通貨システム	現地通貨の変更、レポート通貨の追加、参照通貨の変更	自国通貨の追加/削除/変更、参照通貨の変更	自国通貨の追加/削除/変更、参照通貨の変更	自国通貨の追加/削除/変更、参照通貨の変更、レポート自国通貨の変換方法の変更

通貨初期化では通常、通貨と通貨金額の初期化が実行されます。レート、レート係数、金額制限など、通貨と通貨金額に関連するその他のデータも変換の対象となります。この章では、通貨と通貨金額の変換に関する要件だけを説明します。その他のデータの変換は、どの変換シナリオでも同じです。

通貨初期化 (CRI) に関連するフィールドに適用される変換ルールは、フィールドのタイプによって異なります。たとえば、金額の変換、為替レートの変換、レート係数の変換、レート換算基準の変換には、それぞれ異なるルールが適用されます。変換ルールの詳細については、「変換ルール」を参照してください。

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000410 Single to single currency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000420 Single currency to dependent multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000430 Single currency to independent multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000440 Single currency to standard multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000450 Dependent multicurrency to single currency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000460 Dependent to dependent multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000470 Dependent to standard multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000480 Independent multicurrency to single currency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000490 Independent to independent multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000491 Independent to standard multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000492 Standard to standard multicurrency

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000500 Currency-Initialization Process
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000510 Currency initialization overview
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000520 Process model

通貨初期化の前提条件

標準通貨システムに変換した場合、参照通貨建てのテーブルのテーブル共有をチェックする必要があります。たとえば、依存通貨システムから標準通貨システムに移行する場合、参照通貨の金額は現地通貨建てに変換されます。共有テーブルは、物理テーブルの会社の現地通貨に変換されます。したがって、テーブルが現地通貨が異なる会社のデータを共有している場合、テーブル共有を取り消し、変換を行う前にデータをコピーする必要があります。Tctax017 および tffam710 は、そうしたテーブルの例です。

通貨初期化処理を開始する前に

1. すべての出力済請求書が財務会計に転記されていることを確認します。
2. 次のセッションを実行します。
 - 納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000)
 - 納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000)

これを行わなかった場合、財務会計に転記していない (請求モジュール内の) [出力済] の状況の請求書は変更されません。オリジナル請求書は旧自国通貨のままになります。CRI変換が旧自国通貨を新自国通貨に変更するためです。ただし、請求書を再出力する場合は、新自国通貨が使用されます。

- 次の理由により、可能な限り、初期化プロセスを開始する前に取引をファイナライズします。
 - 内部通貨初期化の際、取引通貨とCIレート (tccri7100m000) セッションで定義された新自国通貨との間の為替レートは為替レート (tcmcs0108m000) セッションにコピーされ、発効日は初期化日に設定されます。その後は、発効日が初期化日より前の取引通貨と新自国通貨との間の為替レートは存在しません。したがって、内部通貨初期化後は、伝票日付が初期化日より前の請求書やその他伝票についていかなるアクションも実行できません。
 - 未ファイナライズ取引には、監査データは記録されません。未ファイナライズ取引はいつでも変更できるためです。すべての取引をファイナライズできない場合、監査の

必要に応じて初期化処理の前または後に、未ファイナライズ取引のレポートを出力できます。

- いずれにせよ、関係会社間取引を含む財務バッチはファイナライズ済である必要があります。
- 財務会計のすべての修正不能バッチはファイナライズする必要があります。そうでない場合、変換処理は中止されます。テスト変換処理を実行した場合、すべての未ファイナライズのバッチがエラーログに含まれます。
- 勘定科目表 (tfgld0508m000) セッションで、CRI プロセス中に、端数修正および二重勘定に必要な元帳勘定および関連データを指定します。
- 安全のため、通貨初期化を開始する前に、必ずバックアップを生成してください。
- バックアップを再インストールする以外に、通貨初期化を取り消す方法はありません。
- 通貨初期化が失敗して中断した場合、テーブル回復のためにバックアップを再インストールします。
- 通貨初期化処理の完了時、新しいバックアップを生成してください。処理データの量は非常に大きく、回復の際、通貨初期化のロールフォワードを行うには費用が掛かり過ぎるかもしれません。

重要

(テスト) 変換の実行中、変換クラスタの会社内で他のユーザや処理を有効にしてはなりません。有効にすると、処理が失敗するか、結果が不正になる可能性があります。

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000540 Additional preparation for a standard multicurrency system setup

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000550 Defining the conversion cluster

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000560 Defining the currency exchange-rates

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000570 Defining the CI tables table and CI table fields

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000571 Specifying customized tables and table fields

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000580 Processing the conversion cluster

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000581 Viewing the audit data

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000582 Run SPT sessions (FP5 and later)

内部通貨初期化の完了

内部初期化クラスタの処理後、次の操作を実行する必要があります。

1. 期間変更に伴う伝票の端数修正の調整 (tccri7214m000) セッションを実行します。このセッションは、会計期間が変更された伝票で生まれた正しくない端数修正を訂正し、正しい端数修正で伝票の残高を調整します。
2. 請求元取引先の残高の再計算 (tfacp2245m000) セッションを使用して、補助元帳の未決済請求額を調整します。このセッションは、各未決済請求書の合計と、各発注先のすべての未決済請求書の合計を再計算します。請求元取引先残高 (tccom123) テーブルの請求残高 (tccom123.amnt) フィールドが更新されます。

3. 請求先取引先の残高の再計算 (tfacr2245m000) セッションを使用して、補助元帳の未決済請求額を調整します。このセッションは、まず各未決済請求書の合計額を再計算し、次に各発注先のすべての未決済請求書の合計額を再計算します。
4. 未決済品目および端数修正の更新 (tccri7210m000) セッションを使用して、未決済品目テーブルの [金額 (外貨)] フィールドと [金額 (自国通貨)] フィールドの端数修正をゼロにします。これにより、tfacp200 および tfacr200 テーブルでは、外貨による残高がゼロである場合は常に、自国通貨による残高もゼロになります。このセッションを有効にできるのは、グループの基準会社の場合のみです。
5. 未決済品目および端数修正の更新 (tccri7210m000) セッションで訂正した後、請求元取引先の残高の再計算 (tfacp2245m000) セッションを使用して、補助元帳の未決済請求額を再び調整します。
6. 未決済品目および端数修正の更新 (tccri7210m000) セッションで訂正した後、請求先取引先の残高の再計算 (tfacr2245m000) セッションを使用して、補助元帳の未決済請求額を再び調整します。
7. 補助元帳の合計金額と総勘定元帳の統制勘定との間の残高をチェックします。差額が存在する場合は、統制勘定チェックリストの出力 (tfacr2415m000) セッションを開始して、示された差額を説明します。
8. 補助元帳の合計金額と総勘定元帳の統制勘定との間の残高をチェックします。差額が存在する場合は、統制勘定チェックリストの出力 (tfacr2415m000) セッションを開始して、示された差額を説明します。
9. 通貨初期化後に期間残高を再作成 (tfgld3205m000) セッションを使用して、履歴の端数修正から生じたすべての転記を含めます。これは、履歴に予定外の端数修正が残らないように、内部変換後すぐに実行する必要があります。このセッションは、クローズ期間についても実行できます。
注意: 内部通貨初期化中に、CI クラスタ会社 (tccri7102s000) セッションで指定した端数修正について元帳勘定に項目が作成されなかった場合、開始残高と履歴を再作成する必要があります。
10. 通貨システムを単一通貨から依存 (独立) または標準複数通貨に変更し、二重勘定を実行する場合は、財務会計の会社パラメータ (tfgld0503m000) セッションで二重勘定について適切なデータを入力する必要があります。
11. 通貨システムを依存複数通貨システムに変更し、為替差損益を計算し転記する場合は、財務会計の勘定科目表 (tfgld0508m000) セッションで現地通貨差損益勘定を入力する必要があります。
12. 通貨システムを標準複数通貨システムに変更した場合は、会社パラメータ (tfgld0503m000) セッション、または、通貨別に追加通貨の特徴 (tfgld0129m000) セッションで、伝票残高の損益勘定を定義する必要があります。
13. 財務会計でいくつかのパラメータとマスタデータの値をチェックして、必要に応じて訂正します。財務会計でチェックする必要のあるフィールドのリストについては、「財務会計のフィールドをチェックするには」を参照してください。たとえば、指定した限度額が 1500 US ドルで、内部変換後、限度額が 1030.23 ユーロになった場合です。これをきりのいい数字、たとえば 1000 または 1100 に変更することができます。
14. 製造の標準原価の実現および在庫の再評価 (ticpr2220m000) セッションを使用して、必要に応じて、標準品目の原価を再計算します。為替差 (ページ 21) の標準原価差額の縮小 (ページ 21) を参照してください。
15. 手数料およびリベートの計算 (tdcms0240m000) セッションを使用して、手数料とリベート金額を再計算します。

16. 企業計画で、次のセッションを使用して、新しい自国通貨に基づきデータを再計算します。
 - パフォーマンスインジケータ (cprao2201s000)
 - ロットサイズの最適化 (cprao3200m000)
17. FASB52 為替差損益調整データは変換されません。FASB52 為替差損益調整体系を使用する場合は、内部通貨初期化前に存在していた FASB52 データをすべて削除する必要があります。内部通貨初期化後、FASB52 元帳勘定を再び作成して、FASB52 データを再計算する必要があります。
18. 売掛年齢調べの計算 (tfacr2511m000) セッションを実行して、売掛金年齢調べデータを更新します。このセッションで、[標準売掛年齢調べ実行] オプションを選択して、標準年齢調べ (すべてのユーザが使用する年齢調べ実行) を更新します。
19. 買掛年齢調べの計算 (tfacp3525m000) セッションを実行して、買掛金年齢調べデータを更新します。このセッションで、[標準買掛年齢調べ実行] オプションを選択して、標準年齢調べ (すべてのユーザが使用する年齢調べ実行) を更新します。
20. ユーザのデフォルト設定を消去します。これが必要になるのは、古い自国通貨がユーザのデフォルト通貨である場合、デフォルト金額計算によってデータが壊れる可能性があるためです。
21. 必要に応じて、会社 (ttaad1100m000) セッションを実行して、古いデフォルト通貨を新しいデフォルト通貨に変更します。

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000591 Completing a light internal conversion

為替差

この章では、以下のタスクの実行方法を説明します。

- 為替レートの差によって発生した為替差を転記する
- 内部通貨初期化後に標準原価差額を縮小する
- 期間合計 (「履歴」) テーブルに対する内部通貨初期化の影響を管理する

INCLUDE: [baanerp_tf_onlinemanual_cri000610 Posting currency differences](#)

標準原価差額の縮小

内部通貨初期化の前後で価格金額に相当の差額が生じる場合があります。この原因としては、内部通貨初期化の前後に使用する為替レートの正確さが異なることが考えられます。

内部通貨初期化の後に標準原価の実現および在庫の再評価 (ticpr2220m000) セッションで原価を再計算することで、価格差額を縮小することができます。再計算後の価格は、古い価格を換算して得られる金額より正確です。

INCLUDE: [baanerp_tf_onlinemanual_cri000630 Internal currency initialization of period totals tables](#)

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000700 Euro Initialization
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000710 Euro initialization types
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000720 Euro compliance implementations
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000730 Internal euro initialization
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000740 External euro initialization
INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000750 External euro translation in Financials

外部ユーロ変換の使用

以下の目的のため、外部ユーロ変換機能で、EMU 通貨建て通貨の未決済請求書金額をユーロに変換できます。

- 支払通知のユーロ建による作成、および銀行ファイルへの書き込み
- ユーロ建て口座引落通知の作成
- ユーロ建て利息請求書の作成
- ユーロ建てキャッシュフロー予測の作成
- ユーロ建て金額の表示または出力

ユーロ建て支払通知を生成するには

通常、未決済請求書に対して支払通知または口座引落通知を生成する場合、支払通知通貨または口座引落通知通貨が請求通貨となります。支払方法として外貨の使用が許可されていない場合、請求書支払方法の通貨は通知通貨と同一である必要があります。外部ユーロ変換により、請求書支払方法をユーロ関係支払方法に変換できます。これにより、EMU 通貨の未決済請求書をユーロ建てで扱うことができます。

ユーロ関係支払方法を使用するには

1. 必要なユーロ関係支払方法を定義します。EMU 通貨を扱う既存の支払方法ごとに、ユーロ関係支払方法を定義できます。たとえば、こうした方法をコピーし、[ユーロ通貨]に支払方法の通貨を設定できます。ユーロ建てのレポートで必要な場合、レポートや銀行ファイルの異なるタイプを使用できます。
2. 支払/回収方法 (tfcmg0540m000) セッションで、EMU 通貨を使用する支払方法ごとに、ユーロ関係支払方法を選択します。

3. 銀行/支払方法別データ (tfcmg0545m000) セッションを使用し、EMU 通貨支払方法の代わりに、新しいユーロ関係支払方法を銀行にリンクします。
4. 以下のセッションで、支払通知または口座引落通知用を生成します。
 - 支払請求書の選択 (tfcmg1220m000)
 - 口座引落用請求書の選択 (tfcmg4220m000)EMU 通貨の請求書で支払通知または口座引落通知用を生成するには、[EMU 請求書にユーロを使用] を選択します。

次の条件を満たす場合、EMU 通貨での請求書支払方法にリンクしたユーロ関係支払方法が自動的に選択されます。

- 請求書のレート換算基準が [固定] タイプでない
- 請求書にリンクされた支払方法の [外国口座使用可] チェックボックスがオフである
- 支払方法通貨が EMU 通貨であり、支払通知通貨がユーロである。支払方法通貨が EMU 通貨で、[EMU 請求書にユーロを使用] を選択した場合が該当します。

注意

ユーロ関係支払方法を請求書支払方法にリンクしていない場合、ユーロ建てで生成された通知に対する照合通貨の支払方法を見つけることができません。処理できない通知の監査レポートを出力した後、作成または生成されたユーロ関係支払方法を以下のセッション内で選択できます。

- 支払通知ライン (tfcmg1101m000)
- 請求先取引先未決済取引 (tfacr2520m000)

ユーロ建て利息請求書を作成するには

利息請求書の請求先取引先回収の選択 (tfacr5210m000) セッションで、[EMU 請求書にユーロを使用] を選択して EMU 通貨の未決済請求書に基づき利息請求書を作成します。

ユーロ建て現預金予測を作成するには

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで、[EMU 通貨の代わりにユーロを使用] を選択して EMU 通貨の未決済請求書に基づきキャッシュフロー予測を作成します。

ユーロ建て財務会計を出力するには

複数の買掛金および売掛金の出力セッションで、EMU 通貨で、ユーロ建てでデータベースに保存されている未決済請求書金額のレポートを出力できます。出力セッションで、[EMU 通貨の代わりにユーロを使用] を選択してレポートをユーロで出力します。

ユーロ建て金額を表示するには

請求額および残高金額を EMU 通貨で表示するセッションで、適切なメニューの [ユーロでの請求額] を選択し、請求額および残高金額をユーロで表示します。すると、ユーロでの請求額 (tfcmg6500s000) セッションが開始されます。

第8章 変換ルール

8

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000800 Conversion rules

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000810 Conversion basis

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri000820 Conversion rules

付録A

財務会計フィールドの確認

A

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri00app_check check

付録B 並列処理の設定

B

INCLUDE: baanerp_tf_onlinemanual_cri00app_setup setup

並列処理の性能調整

本付録では、並列処理を使用して CI プロセス (tccri7203m000) セッションを実行するときに必要な性能調整について説明します。

CI プロセス (tccri7203m000) の実際の処理速度は、利用可能な CPU 数、アプリケーションおよびデータベースサーバの設定などの多くの要素によります。テーブルに含まれるデータの量も、主要な要素の 1 つです。一般的に、以下のテーブルに多くのデータ量が含まれています。

- 統合取引 (tfld482)
- 調整データ (tfld495)
- ファイナライズ済取引 (tfld106)
- 仕掛品および在庫処理 (工程管理) (ticst300)
- プロジェクト管理仕掛品取引および在庫処理 (tipcs300)
- 販売オーダ履歴 (tdsls450、tdsls451、および tdsls456)

Infor LN FP5 およびそれ以降では、RDBMS からテーブルを直接更新する機能が利用可能です。この機能はポーティングセット 8.7a.03 およびそれ以降に導入されています。

RDBMS から直接更新するのは、bshell 経由で更新するより効率的です。その違いは、すべての処理が RDBMS に委譲されている点です。この更新のタイプは、自国通貨額や為替レートの再計算が必要ないテーブルまたはデータに限定されます。これはたとえば、レポート通貨の自国通貨額が現地通貨の額になる場合などが該当します。他の例としては、自国通貨額の削除があります。これはたとえば、レポート通貨が削除された、または通貨システムが標準通貨システムに変更された際にレポート通貨がロジスティックテーブル内にある場合などが該当します。

CI プロセス (tccri7203m000) セッションでは、RDBMS から直接更新が可能かどうかをチェックします。RDBMS からの直接更新が利用できない場合、セッションでは通常の (遅い) 更新を利用します。

RDBMS 更新を利用するには、次の条件を満たす必要があります。

- CI レート (tccri7100m000) セッションで、[基準通貨で表示] フィールドの値が、対応する為替レート (tcacs0108m000) セッションのフィールドと一致する必要があります。たとえば、ユーロを使用する会社では、変換の間に [基準通貨で表示] 設定が変わらない場合、EUR (自国) から取引通貨への為替レートはそのままになります。

注意: これは、為替レート (tcms0108m000) セッションの各基準通貨のすべてのレートタイプに適用されます。

- 技術上の制限
以下の制限があります。
 - DB のドライバはレベル 2 ドライバでなければならない
 - 次のテーブルは監査もミラーも行われない:
tfgld495、tfgld482、tdsls451、および tdsls456
- バージョン 8.7a.03 またはそれ以降のポーティングセットを使用する必要があります。
ポーティングセットの TIV レベルは 1744 以降である必要があります。コマンドラインで \$BSE/bin/bshell6.2 -V (Windows では %BSE\bin\ntbshell -V を使用) を実行すると、この数字を確認できます。

CI プロセス (tccri7203m000) セッションで通貨初期化プロセスが開始した場合、このセッションは変換クラスタおよび関連する会社にアクセスし、どのタイプの変換が必要かを決定します。RDBMS からの直接更新が利用可能な場合、一部のデータがクラスタ会社 (tccri725) および CI クラスタ変換テーブル更新グループ (tccri726) テーブルにより CI 変換テーブルで生成されます。

注意

CI クラスタ変換テーブル更新グループ (tccri726) はクラスタ会社別 CI 変換テーブル (tccri7125m000) セッション内の統合取引 (tfgld482) の入力のためだけに生成されます。

CI プロセス (tccri7203m000) が RDBMS から直接テーブルを更新する場合、クラスタ会社別 CI 変換テーブル (tccri7125m000) で一括更新フィールドが選択されます。

統合取引 (tfgld482) テーブルは、複数の財務会社に属する取引を含めることができます。RDBMS からの直接更新を処理できる統合取引は、更新グループにグループ化されます。1 つの更新グループの取引は 1 つの RDBMS 更新に変換されます。統合取引 (tfgld482) を RDBMS から直接更新せずに変換する必要がある場合でも (同様に)、テーブル変換は分割できます。この方法で、テーブルの従来の更新は並列処理を使用して処理できます。

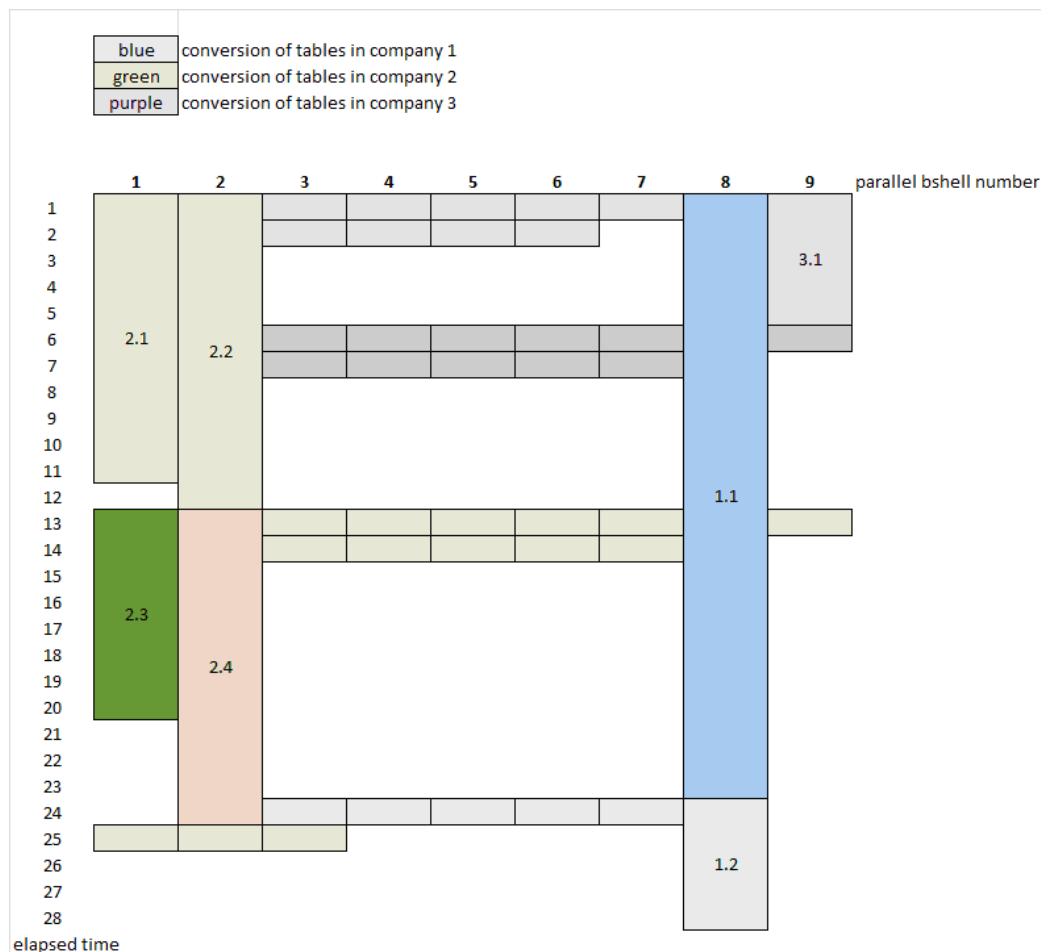
RDBMS からの直接更新が適用できない場合にのみ、調整データ (tfgld495) を分割する必要があります。これはたとえば、自国通貨額や為替レートの再計算が必要な場合が該当します。

注意

- 調整データ (tfgld495) の変換が分割された場合、RDBMS からの直接更新ではテーブルは更新されません。
- ファイナライズ済取引 (tfgld106) テーブルは並列処理を使用して変換されます。RDBMS からの直接更新はサポートされません。

調整例

この例が該当するのは、RDBMS から直接更新されず、かつクラスタ会社別 CI 変換テーブル (tccri7125m000) で分割できる変換タスクです。

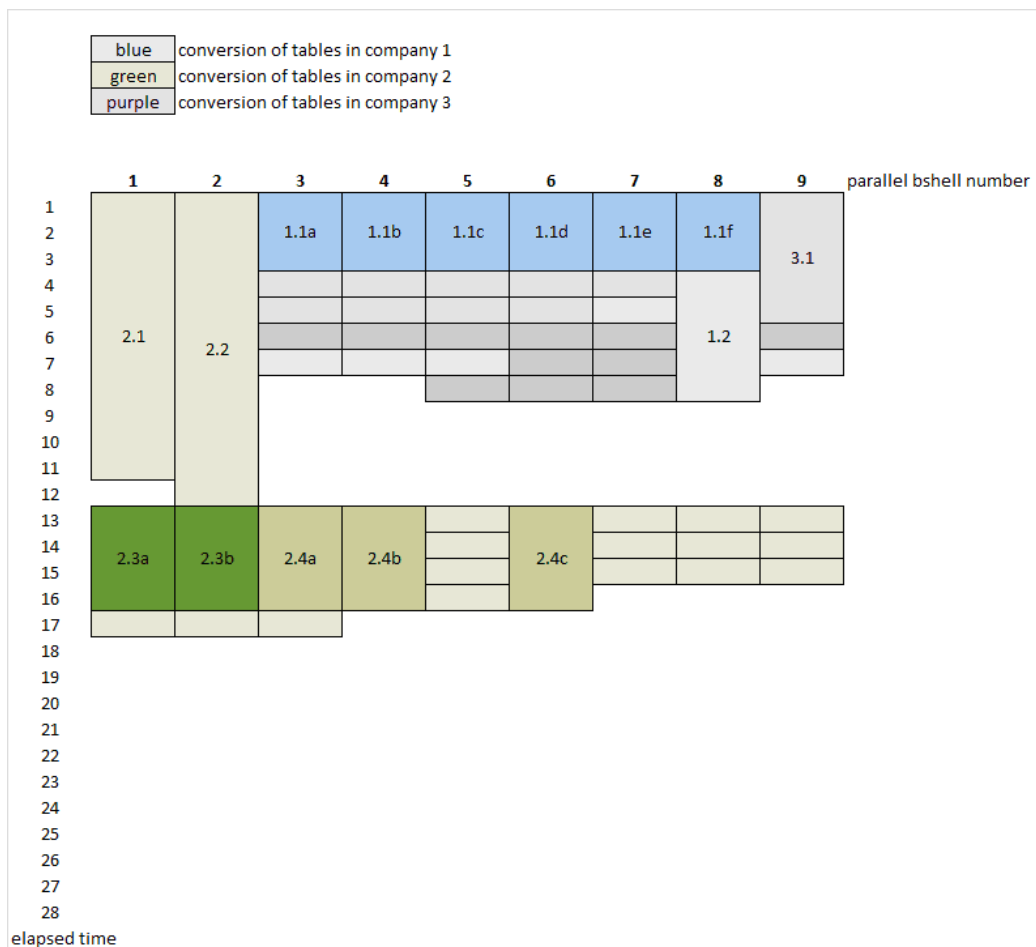


並行処理での内部変換は、会社ごとの通貨設定によって RDBMS からの直接更新を伴う変換と伴わない変換があります。

3 社のデータを 9 つの並列処理の bshell を使用して変換するとします。この画像は、3 社のこの状況を会社ごとに異なる色で表しています。

タスク 1.1 で変換されたテーブルは非常に大きいです。同時に、他の 3 つの大きなテーブル (2.1、2.2、および 3.1) も変換されます。大きな変換タスク 1.1 が分割できれば、6 つの bshell がタスク 1.1 を処理し、その間に 3 つの bshell がタスク 2.1、2.2、および 3.1 を処理するよう決定できます。タスク 1.1 の分割後、このタスクを処理する 6 つのより大きなタスクは、より小さいタスク (紫色) の前に処理されます。

たとえばテーブル 2.3 および 2.4 の変換を分割できれば、同じ手法を使用できます。テーブル 2.3 を 2 つの bshell で並列処理し、テーブル 2.4 を 3 つの bshell で並列処理すると、まだ残りの並列 bshell がより小さいタスク (緑色) を同時に処理する十分な余力があります。



タスクの分割後、並行処理の負担はよりバランスが取れています。

合計経過時間は 28 時刻単位から 17 時刻単位に短縮されました。

CI プロセス (tccri7203m000): テスト変換と実変換

シミュレーションモードでは、RDBMS による直接更新のデータベース処理がテストされます。この更新のタイプは調整データ (tfgld495)、統合取引 (tfgld482)、販売オーダ履歴ライン (tdsls451)、および販売オーダ履歴納入ライン (tdsls456) 内の変換で利用できます。テストモードでは、処理はロールバックされます。これは、実変換での実際の処理よりも非常に長い時間がかかることがあります。

従来の変換ロジックでは、テスト変換中はテーブルデータの更新は行われません。これらのテーブルは、テスト変換中はより短い時間で処理されますが、実変換での処理はより時間がかかることに注意してください。

重要

通貨初期化の際、CI プロセス (tccri7203m000) セッションをテスト変換のために使用している場合でも、変換クラスタの会社内で他のユーザや処理を有効にしてはなりません。

テーブルロックや、コミットされていない処理の読み取りを防ぐには、以下に注意してください。

- テスト変換の際、RDMBS から直接更新すると、テストされたがコミットされていない大きな処理になります。これは、調整データ (tfld495)、統合取引 (tfld482)、販売オーダ履歴ライン (tdsls451)、および販売オーダ履歴納入ライン (tdsls456) でテーブルロックを引き起こすことがあります。
- SQLサーバ: デフォルトでは、データベースドライバは共有ロック、および更新や削除のための排他的ロックを防ぐため、「非コミット読み取り (Read Uncommitted)」分離レベルを使用します。その結果、(テスト) 変換の際、他のユーザまたはプロセスが、調整データ (tfld495)、統合取引 (tfld482)、販売オーダ履歴ライン (tdsls451)、および販売オーダ履歴納入ライン (tdsls456) でコミットされていない処理を読み取ることがあります。詳細は、次の情報を参照してください: SQL サーバ データベースドライバの Infor エンタープライズサーバ技術参照ガイド (U8173 JA)

Oracle 設定

RDBMSからの直接更新は、大きな処理になります。そのため、大きな取り消しテーブルスペースが必要となります。LNでは、32Gの取り消しテーブルスペースでの動作を検証しています。取り消しテーブルスペースのデータファイルを、たとえば1回につき8GBまで自動的に拡張するように設定することをお勧めします。この設定は、ORA-1555 (スナップショットが古すぎる) エラーの発生を防ぐ場合に役立ちます。最大データファイルサイズに注意してください。

取り消しテーブルスペースのサイズが十分かどうかを予測することは容易ではありません。CI プロセス (tccri7203m000) の実行時、LN のイベントビューアのログで、ORA-1555 エラーを探すことをお勧めします。

一般的に、クエリーの性能を高めるために、Oracle データベースは適切な調整を必要とします。

LN では、LN 環境に \$BSE/lib/default/db_resource ファイル経由で以下の設定を適用して動作を検証しています。

- `ora_init:0101000`
- `ora_max_array_fetch:100`
- `ora_max_array_insert:100`
- `ora_alter_session: "_optim_peek_user_binds" = false` に設定

変換のため、バッチベースのデータベースリソースに、上記の行をマージすることを確認してください。

いくつかの実装では、Oracle の隠しパラメータ (いわゆるアンダースコアパラメータ) に非デフォルト値が適用されています。これらの設定はクエリーの実行計画に影響することがあります。これらをデフォルトにリセットすることを確認してください。これは、\$BSE//lib/defaults/db_resource ファイルに `ora_alter_session` プロパティを追加することにより可能となります。

SQL サーバ設定

通貨初期化中は、LN データベースのロギングを「簡易」に変更し、通貨初期化後に完全なバックアップを作成することを確認してください。

配列取得が可能になるよう \$BSE/lib/default/db_resource ファイルを設定し、取得サイズを 100 に設定します。

DB2 設定

配列取得が可能になるよう \$BSE/lib/default/db_resource ファイルを設定し、取得サイズを 100 に設定します。

通貨初期化に関する用語集

変換クラスタ

処理する変換のタイプなど、変換詳細で共に変換する必要がある会社グループまたは通貨グループ

変換クラスタ会社

クラスタの処理時に変換される会社

為替差

請求額が未決済の期間中などに、為替レートの変動により生じる差異。

通貨初期化時に、新通貨建て金額の基づくレートの再計算によりレートの変動が生じることがあります。

依存通貨システム

同一ロジスティック会社内で複数通貨を使用できる通貨システム。ほとんどの法人では、財務会社が使用する現地通貨を決定します。すべての取引は自国通貨で登録されます。

為替レートは外部通貨と参照通貨の間、および参照通貨とその他の自国通貨との間で決定されます。最初に、取引金額は参照通貨に変換されます。次に、参照通貨の取引金額は他の自国通貨に変換されます。

EMU 通貨

ユーロの導入前に欧州経済通貨同盟 (EMU) に加盟している国の通貨

企業単位

法人を構成する、部署、ワークセンタ、倉庫、プロジェクトなどの、財務的に独立した組織の単位。企業のエンティティはすべて同一ロジスティック会社に属しますが、ロジスティック会社は複数の企業単位を含むことができます。1つの企業単位は1つの財務会社にリンクされます。

企業単位間でロジスティック処理を行う場合、これらは各企業単位がリンクする財務会社に転記されます。この企業構造モデルが企業単位の間を定義し、これにより企業単位間で商品転送が行えます。企業単位間で請求および価格設定を使用するには、企業単位を内部取引先にリンクします。

企業単位を使用して、事業の一部で個別の財務会計を行うことができます。たとえば、同一のロジスティック会社に属しているが、異なる国に位置している組織内の部分を企業単位として定義できます。各企業単位の財務会計は各国の自国通貨および企業単位とリンクされた財務会社で行われます。

外部ユーロ初期化

外部ユーロ初期化は、取引通貨もしくはオープンオーダーおよび外部変換を行う取引先 (顧客または発注先) に関する契約の取引額をユーロに変換する

FASB52 為替差損益調整

参照通貨以外の通貨でレポートする前に、現地の自国通貨の金額を正しい通貨に変換するためのガイドライン

機能通貨

法人がビジネスを行うメイン通貨。この通貨は法人のレポートに使用される必要があり、US GAAP/IFRS の機能通貨についての要求に準拠していなければなりません。

独立通貨システム

企業構造モデル内で、すべての財務会社およびロジスティック会社が2つか3つの同一の自国通貨を使用する通貨システムすべての取引は自国通貨で登録されます。

- 為替レートは取引通貨とすべての自国通貨との間で定義されます。
- 取引金額は取引通貨から自国通貨に直接変換されます。

内部ユーロ初期化

内部ユーロ初期化は、現在の自国通貨をユーロに変更し、現在の自国通貨のすべての金額をユーロに変換します。

現地の自国通貨

自国通貨は、会社が設立されている国の法的な通貨。通常、税金レポートは自国通貨で行われる必要があります。

ロジスティック地域

ロジスティック会社と財務グループ会社の組合せ。ロジスティック会社は複数の企業単位を含みます。財務グループ会社は 1 つ以上の財務グループを含みます。

ロジスティック会社の企業単位は 1 つの財務グループ会社内の財務会社にリンクできます。また、企業単位は財務グループ会社内の複数の財務会社にもリンクできます。さらに、異なるロジスティック会社内の企業単位は 1 つの財務会社にリンクできます。そして、財務グループ会社内の財務会社を、どの企業単位にもリンクしないことも可能です。

ロジスティック通貨

次を参照してください: 参照通貨

参照通貨

会社の会計に使用される自国通貨。参照通貨は、通貨についてのすべての計算の基準です。

どの自国通貨を使用すべきかが不明瞭な場合、参照通貨を使用します。複数通貨システムでは、「通貨の変換」機能が利用できない場合、参照通貨を使用します。

複数通貨システムでは、最大 3 つの自国通貨を使用できます。そのうち 1 つは、参照通貨と同一である必要があります。会社に定義できる 3 つの自国通貨は次の通りです。

- 会社の現地通貨
- レポート通貨 1
- レポート通貨 2

同義語: ロジスティック通貨

ロジスティック通貨

次を参照してください: 参照通貨

標準通貨システム

LN FP5 から利用可能となった通貨システム。外国為替取引は取引通貨から、参照通貨を通じたトライアンギュレーションなしに、直接自国通貨に直接変換されます。デフォルトでは、通貨は取引通貨からレポート通貨に変換されます。ただし、レポート通貨を特定の変換方法に設定すると、レポート通貨から自国通貨への変換もできます。

注意

標準通貨システムは、以前 LN で使用されていたその他の通貨システムを置き換えるものです。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

索引

適切なメニュー, 39
通貨
 差額, 21
シナリオ
 通貨初期化, 15
並列処理
 性能調整, 31
完了
 内部通貨初期化, 18
外部
 ユーロ変換, 23
独立通貨システム, 38
前提条件
 通貨初期化, 17
為替差, 37
変換クラス, 37
依存通貨システム, 37
企業単位, 38
機能通貨, 38
現地の自国通貨, 38
参照通貨, 39
標準通貨システム, 39
EMU 通貨, 37
通貨初期化
 シナリオ, 15
 前提条件, 17
内部通貨初期化
 完了, 18
差額
 通貨, 21
縮小
 標準原価差額, 21
標準原価差額
 縮小, 21
ユーロ変換
 外部, 23
性能調整
 並列処理, 31
変換クラス会社, 37
外部ユーロ初期化, 38
FASB52 為替差損益調整, 38
内部ユーロ初期化, 38
ロジスティック地域, 39
ロジスティック通貨, 39, 39
